



安國寺

文 窪田 弘子



14世紀中頃、室町幕府を開いた足利尊氏は、敵味方一切の戦没者供養と天下泰平を祈って臨濟宗の寺を国ごとに1つ置きました。(全国に60程)

土岐氏は足利氏の右腕になって働き、以後代々美濃の守護となつて安國寺をここに建てます。

尊氏は知力・胆力・気力・才(さい)い武将でしたが、室町幕府の後半の100年余りは世が乱れ戦国時代が続きます。

その頃、四国から河野水軍の男「河野塩塵」がふらつとやって来て、

14世紀中頃、室町幕府を開いた足利尊氏は、敵味方一切の戦没者供養と天下泰平を祈って臨濟宗の寺を国ごとに1つ置きました。(全国に60程)

土岐氏は足利氏の右腕になって働き、以後代々美濃の守護となつて安國寺をここに建てます。

尊氏は知力・胆力・気力・才(さい)い武将でしたが、室町幕府の後半の100年余りは世が乱れ戦国時代が続きます。

その頃、四国から河野水軍の男「河野塩塵」がふらつとやって来て、

安國寺にいた白雲斎は日夜、山門から東の金華山を見て「おのれ道三、千人を斬らずにおくものか、この悲願許したまえ」と仏に祈ります。

時代小説のモデルになった「悲願千人斬り」

金華山のおもとの稲葉神社に祈願しました。私はもう帰れません、どこぞの領主に成れたら「稲葉」を名乗ります。念願かなつて土岐氏に仕える事となり、それからは「稲葉塩塵」として、安國寺の裏山に小寺城を築きこの辺りを治めます。

しかし「塩塵」の一族6人が壮絶な討ち死をし、唯一残った孫が稲葉一鉄で信長に仕え出世していきます。「塩塵」の6男が「白雲斎」。一鉄を補佐しますが、主の土岐一族は次々と斎藤道三に滅ぼされます。



N47

夜になると般若の面をかぶり金華山まで馬で駆け、道三の家来とみると物も言わず塩塵直伝の早わざで斬り捨て、千人目はいよいよ道三の息子義龍。この時、一鉄が「義龍殿は主君土岐頼芸様のお子だ」と叫び、仇討は終ります。

この安國寺に伝わるお話です。今のお寺は40年前に再建され、2年前に新任職が着任されました。



▲白雲斎のお墓

編集 池田町観光ボランティアガイド協会